

第70回全国消防技術者会議の開催報告

消防研究センター

令和4年度の全国消防技術者会議は、11月16日（水）及び17日（木）の2日間にわたり、東京都三鷹市の三鷹市公会堂光のホールで開催されました。この会議は、消防防災の科学技術に関する調査研究、技術開発等の成果を発表し、消防職員や消防団員をはじめとする消防関係者間での意見交換を行う場として、昭和28年より毎年開催されているものです。また、第62回より、「消防防災研究講演会」を同時開催しています。

一昨年、昨年と2年に渡りオンライン開催としておりましたが、本年度は座席を1席おきとして距離をとり、感染拡大防止措置を十分に講じることをもって、従来行っていた「顔の見える関係」の構築が再開できるよう対面での開催を実施しました。16日には、特別講演、令和4年度消防防災科学技術賞の表彰式及び受賞作品の発表を行いました。17日には、16日に続き受賞作品の発表と、消防研究センターにおける研究成果等を発表する第25回消防防災研究講演会を行いました。消防防災科学技術賞受賞作品の発表は、27件の全て（口頭発表18件、展示発表9件）について実施し、展示発表は16日昼休みから午後にかけて隣接する会館の多目的会議室にて行いました。2日間で全国から延べ600人を超える方々の参加がありました。

特別講演では、東北大学文学研究科坂口奈央助教に、「おらほの防災とは—地域に伝わる災害への備えを発掘」と題してご講演いただきました（写真1）。災害によって生じた被害をその地で生活している人々はどうか、災害遺構が復興や地域の人々の結びつきにどのような効果をもたらしているのかという問いに対して、震災遺構を通じた地域の結びつきが復興への力になっていることや、人々の結びつきが安全な社会構築にどのように役立つかという視点から講演をいただき、消防行政にも応用できる点を指摘していただきました。

全国消防技術者会議の特別講演、表彰式及び受賞者による発表は、可能なものについては後日消防研究センター HPで動画を公開いたします。

第25回消防防災研究講演会では、「自然災害に対する危険物施設の事故対策」をテーマとし、消防研究センター

から「石油タンクの地震動による被害とその簡易予測」、「洪水時のアルミ工場爆発火災について」と題して2件の発表を行いました。また、東電設計（株）から「小規模タンクの津波・水害対策工法について」、ENEOS（株）から「コンビナートにおける災害時のドローン活用」と題して民間における災害に対する備えを、鳥取大学から「短周期地震動による平底円筒貯槽の浮上り現象の解明に向けて」と題して最新の学術研究成果を、更に消防庁予防課危険物保安室から「台風、大雨時の危険物施設等の事故と防止対策」と題して行政の取り組みについて発表がありました（写真2）。

次回の全国消防技術者会議の開催に関しましては、決定次第、消防研究センターホームページ（<http://nrifd.fdma.go.jp/>）等によりご案内させていただきます。



写真1 東北大学文学研究科 坂口奈央助教による特別講演の様子



写真2 消防防災研究講演会の様子

問合せ先

消防庁消防研究センター 研究企画室
TEL: 0422-44-8331（代表）